

## (11)九州



九州地域では、景気は緩やかに回復している。

- ・ 鉱工業生産は高水準で推移しているものの、一部に弱さがみられる。
- ・ 個人消費は緩やかに持ち直している。
- ・ 雇用情勢は着実に改善している。

(注) 下線を付した箇所は、前回からの変更のあった箇所を表す(    は上方に変更、    は下方に変更)。

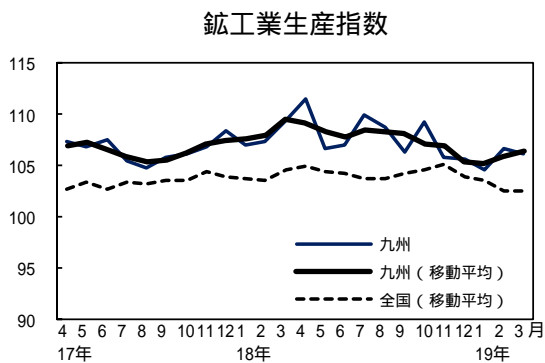
### 前回からの主要変更点

なし

### 1. 鉱工業生産の動向

鉱工業生産は高水準で推移しているものの、一部に弱さがみられる。

1 - 3月期には、電子部品・デバイスは、半導体集積回路(メモリ) 半導体集積回路(線形回路) 等が減少した。輸送機械は、減少した。食料品は、清涼飲料等が増加した。汎用・生産用・業務用機械は、半導体製造装置等が増加した。化学・石油石炭製品は、皮膚用化粧品、無機薬品・触媒等が減少した。



域内主要業種の動向(季節調整値、前期(月)比)(%)

	付加価値 ウェイト	生産				
		10 - 12 月期	1 - 3 月期	1月	2月	3月
電子部品・デバイス	13.6	9.0	3.0	2.2	7.7	3.6
輸送機械	13.5	3.6	1.5	1.7	1.4	6.6
食料品	12.2	2.8	1.0	6.2	2.6	0.2
汎用・生産用・業務用機械	12.2	4.8	0.2	6.6	16.3	14.0
化学・石油石炭製品	10.0	5.1	4.7	0.7	4.5	2.8
鉱工業	100.0	1.4	1.0	1.0	2.0	0.5

(備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い5業種。

2. 1 - 3月期、3月は速報値。

(備考) 1. 2015年 = 100、季節調整値。九州の最新月は速報値。

2. 全国及び九州の太線は中心3か月移動平均。直近月は2か月平均。

## 2. 個人消費の動向

個人消費は緩やかに持ち直している。

(1) 地域別消費総合指数 (RDEI (消費))

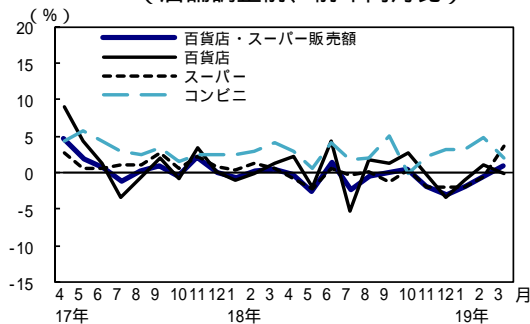
1月は前月比0.1%増、2月は同0.3%減、3月は同0.5%増となった。

(2) 百貨店・スーパー販売額

百貨店は、1月は、高額品や化粧品が引き続き好調だったものの、気温が高く推移した影響で冬物衣料の動きが鈍かったことや、生鮮食品を中心に飲食料品の動きも鈍かったことなどから、前年を下回った。2月は、引き続き気温が高く推移した影響で春物衣料に動きがみられたことや、ラグジュアリーブランドが好調だったことなどから、前年を上回った。3月は、薄手の衣料品の動きが鈍かったことなどから、前年を下回った。

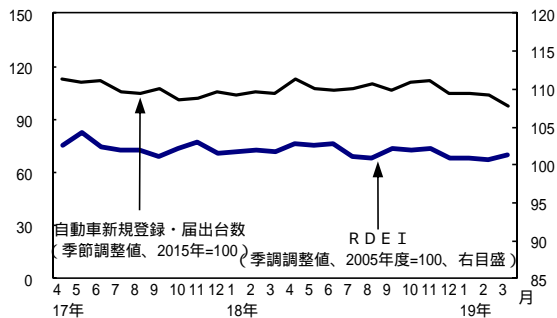
スーパーは、1-3月期は、総菜などの飲食料品や、化粧品、医薬品などの動きが良く、前年を上回った。

百貨店・スーパー販売額等  
(店舗調整前、前年同月比)



	2019年1-3月	2019年1月	2月	3月
RDEI (消費*1)	0.7	0.1	0.3	0.5
百貨店・スーパー(*2)	0.5	2.0	0.3	0.9
百貨店(*3)	1.1	1.1	1.0	2.8
スーパー(*3)	0.4	1.9	0.5	3.6
コンビニ(*3)	3.2	3.1	4.7	1.9
乗用車(*4)	2.2	0.6	2.0	4.1
(季節調整値)(*4)	5.2	0.1	1.2	1.6

RDEI (消費)と自動車新規登録・届出台数の推移



(備考) 1. 季節調整前(月)比(%)

2. 店舗調整前、前年同期(月)比(%)

百貨店・スーパーは内閣府にて算出。

3. 店舗調整前、前年同期(月)比(%)

百貨店、スーパーは沖縄を含む経済産業省の九州の値。

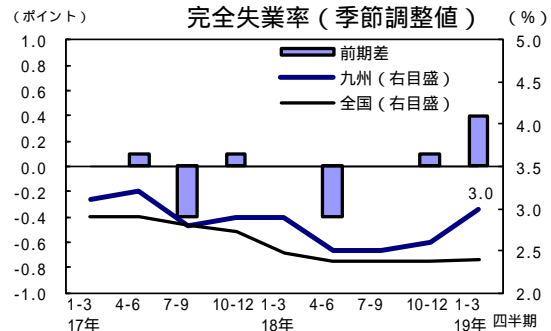
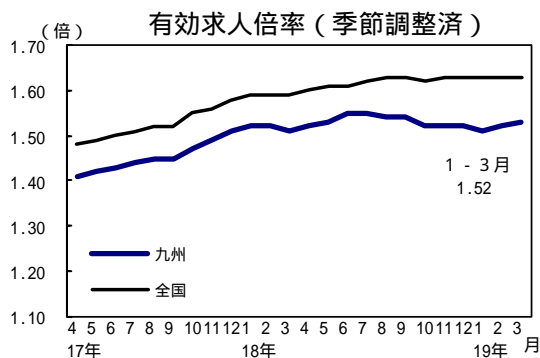
コンビニは、経済産業省の九州・沖縄の値。

4. 乗用車は、新規登録・届出台数(上段は前年同期(月)比(%))

## 3. 雇用情勢

雇用情勢は着実に改善している。

有効求人倍率はおおむね横ばいとなっている。完全失業率は前期を上回っている。



(備考) 内閣府にて季節調整。